

# 課題名：新型コロナウイルス感染症による嗅覚、味覚障害の機序と疫学、予後の 解明に資する研究

## 最終報告

研究代表者：金沢医科大学耳鼻咽喉科教授 三輪高喜 研究分担者：記載省略

**背景と目的**：新型コロナウイルス感染症では、発症早期に嗅覚、味覚障害が発生することが知られているが、わが国における発生頻度と予後は十分に知られていない。本研究の目的は、わが国におけるCOVID-19による嗅覚障害、味覚障害の発生頻度や特徴を把握するとともに、どの程度の期間症状が持続するか及びその予後を把握することである。

**対象**：病院入院中、ホテル療養中の無症状・軽症・中等症のCOVID-19患者（20歳～59歳）の参加希望者

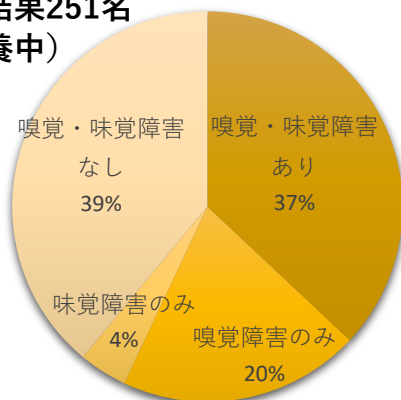
**調査施設**：石川県、東京都、千葉県、大阪府、愛知県の11病院、6療養ホテル

**方法**：参加希望者に入院、療養施設でアンケート調査及び嗅覚・味覚検査（検査キット使用）を行い、嗅覚・味覚の点数付けを行った。嗅覚・味覚の自覚症状やQOLの変化について退院1ヶ月後にアンケート調査を実施した。（3ヶ月後、6ヶ月後にも実施予定）

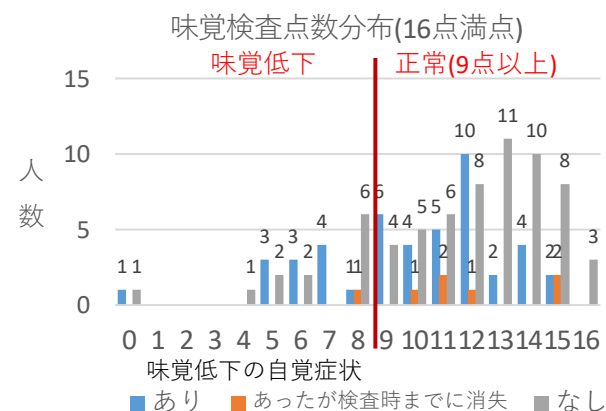
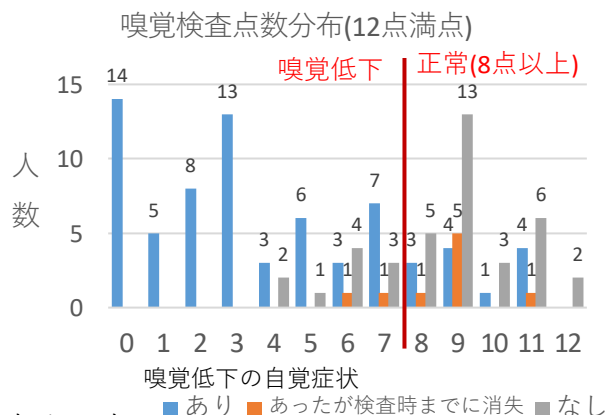
**有効回答**：アンケート回答者数251名、内119名に嗅覚・味覚検査を実施し結果が得られた

**調査期間**：2021年2月18日～5月21日

### 嗅覚・味覚の自覚症状についてのアンケート結果251名（入院・療養中）



### 自覚症状に対するアンケート結果と嗅覚・味覚検査の点数分布(入院・療養中) 119名



●入院・療養中、味覚障害のみは4%と少なかった

●嗅覚障害を自覚する例の多くが嗅覚検査でも正常値以下を示したが、味覚障害を自覚する例の多くは味覚検査は正常であった

⇒多くの味覚障害例は嗅覚障害に伴う風味障害の可能性が高い

●1か月後までの改善率は嗅覚障害が60%、味覚障害が84%であり、海外の報告ともほぼ一致する

⇒味覚障害、嗅覚障害の症状は新型コロナウイルス感染症の治癒に伴い、大凡の人で**早急に消失**する

●QOLの変化については、食事が楽しめなくなったこと等に嗅覚・味覚障害と強い相関を認めた

●3か月後、6か月後の改善率は、本研究とは別にアンケートシステムで引き続き追跡する。(日本耳鼻咽喉科学会で報告予定) 1